

令和 3 年度 県立鉾田第二高等学校自己評価表

目指す 学校像	課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びと、将来を見据えた系統的なキャリア教育を充実させ、一人一人の進路希望の実現を図るとともに、地域 社会との連携を推進し、地域振興に貢献するリーダーとなる人材を育成する、地域に信頼される学校。				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点的目標		達成状況
農業科・食品技術科・総合学科とも地域と連携した特色ある学習活動を実施してきたが、昨年度は新型コロナウイルスの影響で、予定していた活動が実施できなかった。総合学科については、系列の内容をさらに充実させる必要がある。 7年連続で国公立大学への合格者を出すなど、進学指導の成果が見られた。就職についても、求人数の減少はあったが、早期に内定者を出すことができた。今後、さらに充実した進路実現を図るべく、生徒が主体となった活動を積極的に実施し、生徒の適性に根差した進路指導を行っていく必要がある。 生徒指導関係では、特別指導件数が一昨年度よりも減少した（58件85名→40件55名）。問題行動を起こした生徒に対しては、適切に対応、指導した。今後さらに、生徒の自己指導能力、人間関係調整能力、思いやりの心を育成する必要がある。 部活動の加入率は一昨年度と比較して低下したが、制限された状況の中で各部ともできる限りの活動を行った。運動部では陸上競技部が関東選抜新人大会で優勝した。今年度も更なる部活動の充実が望まれる。	1 「農業科」、「食品技術科」、「総合学科」の特色を生かした学校づくりの推進	① 主体的・対話的で深い学びを可能とする魅力ある教育課程の編成を行う。コンピュータやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫する。 ② 進路希望を実現するため、学習意欲を喚起し、学力向上に向けた活動を行う。 ③ 本校の特色や生徒活躍の情報を積極的に中学生や地域に発信し、より多くの受検生を確保する。	A		
	2 生徒一人一人の進路希望を実現するための生徒との「関わり」の深化	④ 3年間を見通した進路に係るガイダンス、面談を組織的に行う。 ⑤ キャリア教育を推進する教育活動の充実を図る。 ⑥ 各種の就業体験活動や資格取得を積極的に推進し、就職・進学のための拡大を図る。	A		
	3 基本的生活習慣と規範意識の定着、及び家庭・関係機関との連携の推進	⑦ 自己指導能力を育成し、基本的生活習慣と規範意識を定着させる。 ⑧ 自転車・バイクの安全指導や、いじめ・SNS等での誹謗中傷の防止・早期発見に努める。 ⑨ 家庭・関係機関との連携に努め、問題行動の未然防止及び拡大を防ぐとともに、学校への理解と信頼を深める。	B		
	4 特別活動・部活動等とおした人格の育成	⑩ 生徒会活動や学校行事の企画を工夫し、生徒の人間関係能力を高める。 ⑪ 部活動等を活性化し、礼節や規則を大切にする態度を育む。 ⑫ ボランティア活動や地域連携活動等への積極的な参加を促し、社会性の確立に努める。 ⑬ 「キャリア・パスポート」を活用し、生徒の学びに向かう力の育成、キャリア形成を図る。	B		
	5 安全・安心な教育環境の整備と自己健康管理能力の育成	⑭ 定期的な「安全点検」や清掃活動の充実により、安全・安心な教育環境の整備に努める。 ⑮ 定期的な啓発活動等により、生徒及び教職員の緊急時の対応能力を高めるとともに、自己健康管理能力を高める。	A		
	6 校内における適切な働き方改革の推進	⑯ 教職員一人一人の業務を見直し、効率化を図ることにより、負担軽減に努める。 ⑰ 1ヶ月あたり45時間以内となるよう、各教職員の時間外勤務の削減を目指す。	B		
三つの方針		具体的目標		評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラディエーション・ポリシー)	(長期的目標) 地域振興に貢献するリーダーとして活躍する人財の育成		B	B 卒業時に望まれる姿から逆算した、授業等に取り組む目標の設定 教育活動のビジョンを学校外の関係者・諸機関と共有するための体制構築 入学希望者や中学校関係者
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 生徒一人一人の進路希望に応じた指導体制による、生徒全員の進路希望実現		A	
	「入学者の受入に関する方	(短期的目標)			

		針」(アドミッション・ポリシー)	自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒	B		に対し、学校が期待する生徒像を明示
評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導	国語	基礎学力の向上	・生徒の学習実態の把握に努め、理解不十分な生徒に対してきめ細かな指導を行う。②	A	B	・基礎学力の向上(継続)、実用的な国語力の養成、ICT機器の活用、学習評価の具体化・評価項目の設定 ・今年度のタブレット(電子黒板)使用による学力向上の成果を検証
			・進路希望を実現するため、各科目の言語活動を通して生徒の表現能力を高める。②	B		
			・副教材を活用し、各学年・年次と連携して生徒の語彙力向上に努め、資格取得を促す。⑥	A		
		わかる授業への取組	・科目担当者間で連携し、効果的な指導方法や有用な教材の情報交換に努める。②	B		
			・教員の指導力を高めるため、研修等に積極的に参加する。②	B		
	地歴公民	基礎学力の向上	・定期的な確認テスト・小テストの実施や課題学習を通し、基礎学力の充実・定着化を図ると共に、自学自習の確立を図る。②⑦	B	B	・ICT機器を活用した授業展開 ・自発的な活動を促す授業展開
			・学習内容を理解させるため、きめ細かな指導を行うとともに、適宜質問の時間を設ける。②	A		
		わかる授業への工夫改善	・教材研究の充実により、学習内容の精選及び明確化を徹底する。②	A		
	数学	進路に応じた指導の充実	・定期考査問題の内容への配慮及び課外・補習などの実施により、生徒の進路希望に応じた学習指導に努める。①	B	B	・生徒の特性をふまえた教科書の精選については、来年度以降も検討する必要がある。また、生徒に対して、数学を学ぶ必要性の説得力のある説明や数学嫌いを緩和する工夫をすることも今後の課題である。
			・生徒の特性をふまえて教科書の精選を図り、個に応じた指導を図る。②	B		
			・学習内容の理解を深めるため、生徒が問題を考察する時間を確保し基礎的な学力の定着を図る。②	B		
			・アクティブ・ラーニング的な手法を取り入れ、ICT(タブレット・電子黒板など)の活用を推進し、生徒たちが主体的に学べるような授業を展開し、学習意欲を向上させる。②	A		
			・課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。②	B		
		進路に応じた指導の充実	・個々の進路希望に応じた課題等を与える。⑦	A		
			・学校設定科目において、生徒の進路希望に応じて、指導内容等を工夫し指導にあたる。②	B		
			・教科内の連携を図り、指導内容及び評価方法についての共通理解を図る。②	A		
	理科	基礎学力の定着	・生徒の学習の理解度に応じたきめ細かい指導を行う。②	A	B	・自然科学全般への興味関心を引き出す工夫や、継続的な実験の実施など、来年度以降も積極的な取り組みが必要である。
			・学習の理解を深めるために実験・観察を行い、生徒の興味・関心を高める。②	B		
			・成績が不振な生徒に補習を実施して学力の定着を図る。⑥	A		
			・定期的に課題を提出させることにより、家庭学習習慣を定着化させる。②	B		
	保健体育	進路目的を達成するための学習指導	・学校設定科目等の実施により、生徒の進路に沿った指導を行う。⑥	A	A	・体育の実技授業でのICT活用。そのために体育館のwifi環境の整備を望む。
			・進路実現のための課外授業を実施する。⑥	B		
		運動技能の向上	・生徒一人一人にあった課題を設定し、計画的に運動を実践する。②	A		
			・体づくり運動やランニングなどの補強運動を取り入れながら実施する。②	A		
			・互いにゲームのルールや技能を教え合える雰囲気作りをする。②	B		
		構成・協力・責任などの態度の育成	・集団行動の重要性を理解し、他者と協力する能力を育成する。⑦	B		
			・能力に応じて、仲間と安全に留意して行えるルールを設定する。②	A		
	芸術	生涯を通じて健康的に生活できる資質や能力の育成	・ICTの活用による資料や事例の提示を通して健康的に生活するための資質能力を育成する。⑮	A	B	・主体的に学習に取り組むため教材の精選、ICT活用に設け必要な設備の整備。
			・学校行事等を利用して、生涯を通じて運動に取り組む資質を育成する。⑨	A		
			・芸術を愛好する心情を養い、生徒の個性を生かせる教材の選択・研究を行う。②	A		
	英語	教材の精選・研究と指導の工夫改善	・主体的な学習活動の指導を研究・実践する。②	B	B	・教科内での評価基準を再度検討し、明確化する。統一した評価を行う。 ・英検、GTEC等の受験者が依然少ないため、資格取得支援を見直す。
		授業の工夫・改善	・ICTを活用し生徒の意欲や関心を引き出すと共に、英語力向上に繋がる実践的な活動を工夫する。②	A		
			・観点別評価において教科内で協議し、評価の統一を図る。CAN-DOリストを活用した授業を展開する。②	B		
		基礎学力の向上	・習熟の不十分な生徒に対し、課題を与え、補習を実施する。②	A		
		資格取得等の支援	・放課後課外や模試対策等を行い、基礎学力の向上を図る。②	A	B	
			・英語検定への受験を勧め、1次試験事前課外、2次試験面接指導を行う。⑥ ・大学入試対応のスコア獲得のためのGTECの受験をすすめ、対策を講じる。⑥	B		
		基礎的・基本的な知識と技能	・教科内での共通理解を図り、わかりやすく統一された授業を展開する。①	B		・来年度も引き続き教科内

教 科 指 導	家 庭	の習得	・評価規準を明確にし、観点別に評価を行う。①	A	B	の共通理解を徹底していきたい。また、ICTを有効的に活用した授業を展開できるようにする。
			・段階見本の作成・活用やICTの活用等の教科内研修による指導力の向上により、知識と技能の確実な定着を図る。①	B		
		地域との連携 安全で衛生的な実習環境の整備	・銚田市と連携した授業展開を行い、学びを地域還元する活動を実施する。③	A		
			・施設・設備の定期的な清掃と点検を実施し、安全衛生管理を徹底する。⑭	A		
	情 報	基礎的・基本的な知識及び技能の習得	・個人の学習理解度を把握し、きめ細かな指導を実施し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。⑥	B	A	・家庭学習期間が長かったこともあり、実習時間が十分でなかった。実習ができないことを想定した授業の工夫が必要である。
		情報活用能力の育成	・コンピュータ機器等を積極的に活用し、情報活用能力を育成する。②	A		
		情報モラルの育成	・授業を通して、情報社会のモラルや態度を育成する。⑦	A		
	農 業	農業に関する基礎的・基本的な知識や技術の習得	・生徒一人一人の多様な個性及び理解度に応じた授業と実験実習を展開し、基礎・基本を大切にしたいわかりやすい指導方法の確立に努める。② ・プロジェクト学習を主とした体系的な実験実習を取り入れ、生徒の知識・技術の定着を図り、人間性豊かな職業人育成を目指す。②⑤	A	A	・今後も基礎基本を大切にしたいわかりやすい実習指導を心がける。また、実習中や管理作業中の事故ゼロを目標とする。 ・さらに、資格取得者の増加をめざす。各種制度については、授業内で触れる機会を増やす。
		事故防止の徹底	・農場や実験室の環境整備並びに施設・設備や農業機械の点検整備を充実させる。⑭ ・安全教育を主とした授業や実験実習を展開し、事故及びヒヤリ・ハットの防止に努める。⑮	A		
		資格取得の推進	・生徒の目的意識を高め、小型車両系建設機械、フォークリフト等の資格取得を支援する。②⑤			
		環境教育の実践	・ポジティブリスト制度や農業生産行程管理（G A P）に沿った授業や実験実習を展開し、安心・安全な農産物の栽培法を定着させる。①②	B		
	食 品 技 術	食品に関する知識・技術の習得	・基礎・基本を大切にし一人一人に対して、わかりやすい指導方法の確立に努める。①② ・タブレットなどを効果的に活用し、生徒の知識・技術の定着を図る。①	B	B	・ICTを活用した授業・実習を進める。
			事故防止の徹底	A		
		資格取得の推進	・生徒の目的意識を高め、「危険物取扱者試験」の資格取得を支援する。②⑤	B		
	商 業	基礎的・基本的な知識の習得	・学習の理解度に応じてきめ細かな指導や補習を実施し、基礎的・基本的知識の定着を図る。⑥	A	A	・資格取得を奨励し、今年度よりも高い合格率の向上を図る。
		資格取得の奨励	・学習の成果として、資格取得を奨励し、合格率の向上を図る。⑥	A		
		職業観の育成	・商業、農業の科目を履修し、6次産業について理解を深め、地域に貢献できる人材を育成する。⑥	A		
	福 祉	福祉に関する基礎的な知識と介護技術の習得	・主体的・対話的な授業展開を実践するため、I C T等を活用し学習内容や方法を再検討する。②	A	B	・2年次の施設実習が出来なかったため、次年度円滑に実習が出来るように支援する。
			実習を通じた実践的な態度と職業観の育成	A		
			・施設実習を通して、職業観や健康管理・マナー・礼節の大切さを身につけさせる。⑤	B		
教 務		「農業科」・「食品技術科」・「総合学科」それぞれの特色を生かした教育課程の検討と運営	・新学習指導要領による教育課程の実施に向けての準備を進める。②	A	B	・より効率的な学校運営を目指す。 ・開かれた学校運営の構築を目指す。
			・G I G Aスクール委員会と連携し、端末等を効率的に活用できる環境を整える。①	A		
			・「総合学科」の生徒の履修計画の一助となるように、「産業社会と人間 学習ノート」を編集し直し、効果的に活用する。④	B		
		生徒が自己実現を果たせる時間割の編成	・学年・年次との情報交換を密にし、生徒の進路実現を目指した時間割の編成をおこなう。①	A		
			・時間割編成についての研修をととして職員の共通理解を図る。①	B		
		開かれた学校を目指した地域への情報発信	・ホームページ更新回数を増やし、各種媒体へ情報を提供し本校の活動状況を地域に発信する。③	A		
			・桜芳祭・緑苑祭をはじめ公開授業や学校説明会を工夫し、その内容の充実に努めるとともに、回数を増やす。③	B		
		基本的生活習慣の確立及び自己指導能力の育成（校内外でのマナーの向上）	・遅刻ゼロ運動を継続する。段階的な指導を徹底する。スマホ・携帯のマナーを徹底する。⑦	B	B	・基本的生活習慣の確立及びマナーの向上。 ・SNSの利用によりトラブル
			・登下校指導による、挨拶の励行及び服装指導等を行う。校外においても制服を正しく着用させる指導の徹底を図る。また、公共の場所において正しい判断のもと行動できるようにする。⑦	B		

生徒指導	自転車・原付バイクや四輪車の安全指導。	・原付バイク運転実技講習会や交通講話、安全点検を実施し、交通事故の悲惨さや運転手の責務等について認識させ、交通ルールを遵守させるとともに、交通事故の未然防止及び安全指導を行う。⑧	A	B	防止。 ・交通事故防止。
	いじめ・SNS等での誹謗中傷防止及び早期発見	・いじめはどの生徒にも起こりうる問題であることを十分認識し、生徒の変化を注意深く観察し、声かけをし相談しやすい関係をつくる。⑧	B		
特別活動	特別活動の活性化と自発的活動の促進	・生徒会活動や委員会活動の活性化。生徒達が積極的に活動できるような環境をつくる。各委員会が、年間計画案に基づき活動する。⑪	B	B	・部活動のあり方について整理していく必要があると考える。 ・各部活動の活動場所の整備（清掃含）について生徒の意識を高める。 ・学校行事に取り組む態度を育成し、積極的な態度で参加できるようにすることで各行事の成功に結びつける。
	積極的な部活動への参加と部活動環境の整備	・部活動加入率を高めるため、新入生の年度当初の見学会に必ず行かせることと、教員側も積極的な呼びかけをし、部員確保に努め活発な活動を図る。⑪	B		
	学校行事の活性化と積極的なボランティア活動への参加促進	・施設、用具の充実を図り、運動部・文化部がより良い活動が行えるようにする。⑪	B		
		・仲間への思いやりや、集団の中での自己の役割を理解し、お互いに協力し合える態度を身につけさせる。⑩	B		
		・学校行事それぞれの意義を理解させ、全生徒が積極的な参加を目的とした指導を展開し、各行事の成功へと結びつける。⑩	B		
		・各種のボランティア活動参加募集の告知を徹底し、積極的な参加を促すようにする。⑫	B		
進路指導	キャリア・パスポートの有効活用	・自己の活動や成長を確認できるようなキャリア・パスポートを作成させる。自己実現に向けて将来への見通しや展望を図り、自己のキャリア形成に生かす態度を養わせる。⑬	B	A	・就職希望者の就職試験に向けて基礎学力を向上させる必要がある。 ・進路決定後に、意欲の低下が見られる生徒への対応が必要である。
	進路希望実現に向けた進学、就職指導の充実	・進学希望者対象の課外授業や土曜講座を充実させ、高い学力の育成を図る。②	A		
		・就職希望者に対する面談指導を徹底するとともに、課外授業を充実させ基礎学力の向上を図る。②④	A		
		・生徒が主体となった活動への参加を促し、コミュニケーション能力の向上を図る。④	B		
	キャリア教育による進路意識の高揚	・進路講演会・出前授業等、効果的な進路行事の立案・実施に努める。④	A		
		・各種の資格取得を短期目標に据えさせることにより、進路意識の高揚を図る。⑥	B		
		・各種の職場体験等の取り組みを通して、健全な職業観・勤労観の育成を図る。⑤	B		
	進路に係るガイダンス、カウンセリング機能の充実	・進学・就職ガイダンスを実施して、進路に対する積極的な意識付けを図る。④⑤	A		
		・個別面談を充実させ、進路目標の随時見直しを図る。④	A		
		・生徒・保護者へ提供する進路情報の内容充実を努める。必要に応じて、リモートでの説明会等の支援を行う。①④	A		
保健厚生	環境美化の維持	・定期的な安全点検や日々の清掃指導の徹底を図って校舎内外の安全・美化の実現に努める。⑭	B	B	・新型コロナ終息後は、日常や避難訓練などを慎重に戻していく。
	自己健康管理能力の育成	・「保健だより」等とおして、健康に対する関心を高め、生徒自身が健康的な生活に取り組める態度や能力を育成する。⑮	B		
	緊急時の対応能力の育成	・防災避難訓練をととして訓練の必要性を認識させると共に、主体的な危機回避能力を育成する。⑮ ・心肺蘇生およびAEDの教職員研修を実施し、緊急時に対応できる資質を養成する。⑮	B		
図 書	図書委員会活動の活性化	・委員会の定例化をすすめ、係ごとの活動を円滑に行う。	A	A	・教科別で、教育課程に即した図書の購入希望をとる。 ・学校司書の配置
		・スタッフマニュアルをもとに図書委員すべてが役割を自覚し積極的に活動する。 (図書だよりの発行・館内ディスプレイや展示の工夫・蔵書点検など)	A		
	図書館の利用・活用の推進	・教科・年次(学年)・他分室との連携により、読書活動を啓発して貸出数を増やす。	A		
		・配架・案内表示などの館内の環境を整備する。	A		
		・購入希望図書の調査を実施する(教員・生徒)	A		
		・教育課程の展開に即応した資料や進路関連図書の充実を図る。①②⑤	B		
渉 外	図書部運営の円滑化	・スタッフマニュアルをもとに担当職員すべてが係の仕事に関わる。⑯	B	B	・コロナ禍での活動を模索する。
		・学校司書の配置⑯			
渉 外	学校・家庭・地域社会・関係機関との連携	・各委員会活動・PTA会報・ホームページ等を通し、生徒・学校の活動状況を理解してもらい、家庭・役員・地域社会・関係機関の学校への関心や協力体制を高める。また、後援会の援助体制を有効に活用する。⑨	B	B	・教員間の円滑な情報共有。
	スクールカウンセラー(S C)を活用した教育相談体制	・教員間の連携を密にし、生徒が抱える問題を早期に発見し、指導方針を立て対応するように努める。⑧	B		

教育相談	の充実	・ＳＣと教員の連携や情報共有が円滑に行える体制の確立を図る。⑧	B	B	・いじめ、友人関係のトラブル未然防止。 ・生徒対応に役立つ研修会の実施。	
		・「教育相談だより」を発行し、生徒や保護者にＳＣ配置の相談室を知らせるとともに、気軽に利用できる相談室の整備に努める。⑮	A			
	教育相談における教員の資質や能力の向上	・教育相談に関する情報の提供と、校内研修会の充実を図る。 ・教員の相談室利用を促し、ＳＣとの相談や助言を通して、生徒への関わり方などについて改めて考え学ぶ機会の確保に努める。	A B			
農 場 部	農業に関する基礎的、基本的な知識と技術及び実践力習得の推進	・体験的教育活動をとおり、勤労意欲の醸成と基礎的な知識及び技術に基づく実践的な能力態度を育成する。①②⑤	B	B	・専門教育の成果を地域にPRすることにより、学校広報や生徒募集の一助とする ・ICT活用に必要なwi-fi環境の整備	
	農業クラブ関係行事や校内外の各種行事への積極的参加	・農産物販売などの対外的な活動を通し、専門教育の成果を広報するとともに、各種イベントへの参加などにおいて地域社会との連携を図り、生徒の社会的資質向上に努める。①③⑫ ・体験的専門教育を基とした学校農業クラブ活動を実践し、科学性・社会性・指導性の醸成を図る。①②⑫	A A			
	農業専門教育の充実	・農業技術の進歩や産業の動向に対応した指導を目指し積極的な研修を行い教職員の更なる資質向上に努める。①②⑤	B			
1 学年 ・ 年次	基本的生活習慣の確立	・欠席、遅刻、早退の回数を抑える。⑦ ・時間厳守、チャイム着席を徹底させる。⑦ ・頭髮服装指導を実施し、身だしなみの大切さを理解させる。⑦ ・マナーやルールを守る生徒を育てるために、規範意識の向上を図る。⑦	B B B B	B	・基本的生活習慣に関しては概ね良好であるが、一部で課題の残る生徒がいるため、継続して指導する。 ・家庭学習も概ね良好であるので、引き続き指導する。 ・生徒各自が自分の選択したコース、系列の授業に対して、目的意識を持って臨めるよう指導を続ける。	
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の定着に向け、課題や小テストを設ける。② ・各種検定試験を推奨し、学校・家庭を問わず学習する習慣を身につけさせる。②	B			
		・各授業を通して、自分の将来を考える機会をつくり、コース選択（農業科・食品技術科）や系列選択（総合学科）の一助とする。④	A			
	進路指導及びコース・系列選択、科目選択の指導の充実	・生徒一人一人のニーズに沿った進路実現に向け、卒業生や進路に関する講話等、指導の場面を設ける。⑤	A			
	2 学年 ・ 年次	基本的生活習慣の確立の更なる徹底	・欠席、遅刻、早退の防止に努め、授業前の振鈴着席等の時間厳守を徹底する。⑦ ・頭髮服装指導により身だしなみを整えさせる。⑦ ・実社会に出た時に、責任ある行動がとれるように、規範意識を高めマナーやルールを守る生徒を育てる。⑦	B B B	B	・頭髮、容姿、服装、規範意識に乱れのある生徒が複数名存在する。継続して指導する必要がある。 ・学習習慣が定着されておらず、学力向上・学習意欲は十分ではない。継続して指導する必要がある。
		基礎学力の定着と進学に向けての学力向上	・各種検定試験の受検を促し、定期的な課題学習により、基礎学力の向上を図る。② ・進路希望の実現をめざし、課題探究学習を行い、主体的な学習習慣を定着させる。①④ ・進路ガイダンス等進路情報を生徒に与えていくことで進路意識を高揚させる。④	B A		
家庭との連携強化		・家庭との電話連絡等を密に行い保護者との好ましい関係をつくることで、生徒指導が円滑にできるようにする。⑨	A			
3 学年 ・ 年次		最高年次としての自覚と基本的生活習慣の確立	・マナーやルールを遵守し、社会人としての責任ある行動や言動ができるように育成する。⑦ ・時間厳守・期限厳守を徹底させる。⑦ ・自転車・バイク・自動車の交通安全指導の徹底と事故防止に努める。⑧	B B B	B	・マナーやルールを守る意識の涵養には、３年間を見通した段階的な指導の構築が必要である。 ・SNSの使用法など、規範意識を高める指導を繰り返す。 ・コミュニケーション力の育成
	進路実現のための学習指導と進路指導の強化	・進路希望にあわせた指導の充実を図り、各種模擬試験や学校説明会、オープンキャンパスへの積極的な参加を促す。④ ・新型コロナウイルスの状況に応じた適切な情報提供と指導を実施する。 ・進路に関する個人面談や面接指導を充実させる。④ ・各種資格・検定試験等への積極的な参加をよびかける。⑥	A A B			
	生徒との積極的な関わりと家庭との連携	・普段から家庭との連絡を密にして情報の共有化を図り、保護者との相互理解の上で進路・生徒指導を円滑に進め、生徒の進路実現を目指す。⑨	B			

判定基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった